

東京大学史料編纂所

史料編纂所しりょうへんさんじょは、日本の古代から明治維新时期までの前近代史料の編纂を中心事業とする歴史学の研究所です。その淵源は、1793年に国学者の塙保己一(はなわ・ほきいち)が江戸幕府の援助を受けて開設した和学講談所にさかのぼります。

史料編纂の基礎となる史料の調査・収集事業は、1885(明治18)年から本格的に始まり、その蓄積のうえに、1901(明治34)年、史料集の刊行が開始されました。以後100年余りの活動のなかで、『大日本史料』・『大日本古文書』・『大日本古記録』・『大日本近世史料』・『日本関係海外史料』・『花押かがみ』などの書目名で刊行された基幹的史料集は総計1000冊を超え、国内外の日本史研究者に活用されています。

画像史料研究の最前線

～ 屏風絵・絵巻・錦絵・古写真から歴史の舞台が甦る！ ～

史料編纂所で復元模写した『洛中洛外図屏風』、中国にある絵巻との比較研究が進む『倭寇図巻』、歴史地震研究の史料として貴重な『江戸大地震之図』や絵巻、そして近年オーストリアで発見された日本関係古写真などを取り上げ、その調査・研究の成果についてご紹介いたします。

【開催日時】：8月8日(木) 10:00～16:30

【開催場所】：史料編纂所 1階 (展示ホール)

※事前申込等は不要です。ご自由にご覧ください。



洛中洛外図屏風 (復元模写・部分)



国宝・島津家文書「江戸大地震之図」(部分)